

巧みな技術手腕で 統合文書管理を提案



インタビュー

沖電気工業株式会社

<http://www.oki.com/jp/>

本社 東京都港区虎ノ門1-7-12

・事業内容：電子通信・情報処理・ソフトウェアの製造・販売およびこれらに関するシステムの構築・ソリューションの提供、工事・保守およびその他サービス

・設立：1881年11月1日

・資本金：440億円

・関係会社：84社（2018年3月31日現在）

時代の要求に先駆けた技術開発

沖電気工業株式会社は、音声・文字・イメージ・映像・現物（現金・チケット等）を届ける技術開発にこだわり、時代の要求に先駆けた事業を展開しています。グラハム・ベルが電話機の特許を取得した5年後には、創業者沖牙太郎^{おきぎばたろう}は国産初の電話機を生産していました。その後、複数対複数の通話を可能にするために交換機を生産し、リレー型の交換機のスイッチング技術からメカトロニクス技術を養いました。リレー技術を元に開発したテレタイプライターはメカトロ分野進出の足掛りとなり、半導体及びコンピュータ分野へ進出、テレタイプライターの技術とコンピュータ技術からATMを開発しました。また、IP技術、VoIP技術、それらの応用で営業店端末などを開発しました。このように皆さんが当たり前のように使っているIT技術は、当社が時代の要求に先駆けて開発してきたものです。現在は情報通信事業のほかメカトロシステム事業・プリンター事業・EMS事業を柱としております。

OKIグループは「進取の精神」をもって、情報社会の発展に寄与する商品・ソリューションを提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献することを企業理念としています。環境課題を見据え、OKIグループ環境方針を策定し、商品と事業の両面から環境経営の推進、環境負荷の低減に努めています。

金融機関のペーパーレス化を実現

現在は創業以来培ってきたネットワーク・光・電波などの技術を基に、防災・減災、次世代交通、金融・流通サービス、ものづくり・製造などの分野で、IoTに重点を置いたプロダクト、ソリューションを提供しています。

金融機関向けには、コールセンターシステムやネットワーク系システム、営業店・事務センター業務のさまざまなシステムを提供していますが、金融機関では膨大な量の紙が発生し、紙文書の管理に大きな課題があります。例えば、文書保管・管理する手間、保管スペース不足、文書の紛失や誤廃棄のリスク、監査対応の工数の多さなどです。こういった課題に対し、イメージデータを活用することで文書管理の効率化や管理工数の削減が期待できます。また電子帳簿保存法に準拠することで、紙文書が廃棄でき、文書保管を削減し、保管スペースを縮小することも可能になります。当社では金融機関向けにこのようなトータルソリューションを提供し、営業店のペーパーレス化を実現しています。今後発生する文書は、タブレット端末等で対応し、そもそも紙を出力しないよう提案する一方、帳簿や決算書のように紙の保管が必要なものは現物管理を行い、廃棄してよいものはイメージ化しタイムスタンプを付与して現物を廃棄します。イメージファイルは一元管理を行い、必要時にパソコンやタブレットで

照会できるようになります。

法要件を満たしたシステム開発

当社のドキュメント管理システムである「イメージウェアハウス」は、イメージを集中保管するシステムです。電子帳簿保存法の検索やタイムスタンプの要件を満たすように開発しました。

スキャナや複合機との連携はもちろん、他システムとの連携により、他システムで管理している文書もイメージウェアハウスから照会することが可能です。このような帳票の一括管理は、検索などのハンドリングを容易にし、作業時間を削減、事務作業を効率化することができます。また、タイムスタンプにも対応していますので、改ざんの防止・検知も可能です。

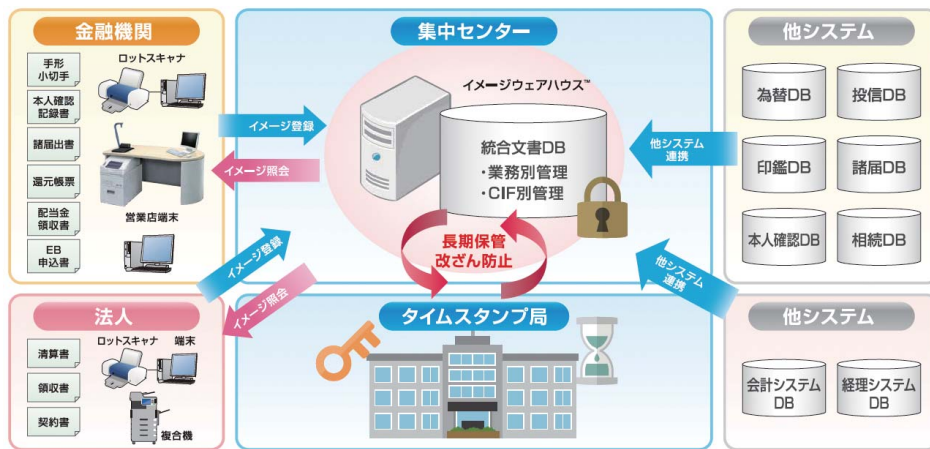
このようにイメージウェアハウスは、ペーパーレス化によるさまざまな効果が期待できますが、金融機関ではその業態から、なかなかペーパーレス化が進みません。何かあった時のために現物を保管しておきたいという傾向が強く、なかなか紙を廃棄

いただくことができません。そこで、まず当社内で紙を廃棄する実績を作り、そのノウハウを提供することで、お客様のペーパーレス化を促進する突破口を作ることになりました。

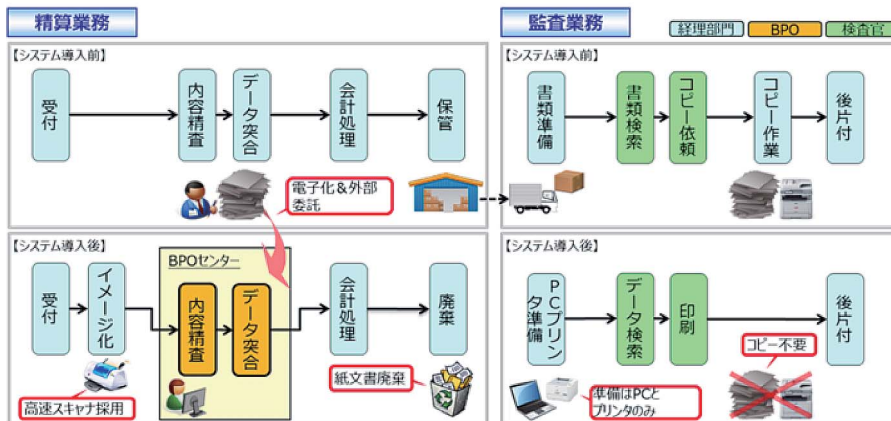
当社の電子帳簿保存法対応の取り組み

当社では、旅費精算などの経費精算の際、紙ベースで内容を精査し、会計処理をして紙帳票を保管していました。この運用では、内容を精査する工数が多くかかり、効率化が図れません。そこで経費精算を受付けたら紙をイメージ化し、タイムスタンプを付与して管理する、リモートからイメージベースで内容を精査し、突合したら会計処理に回すという運用に変更したのです。

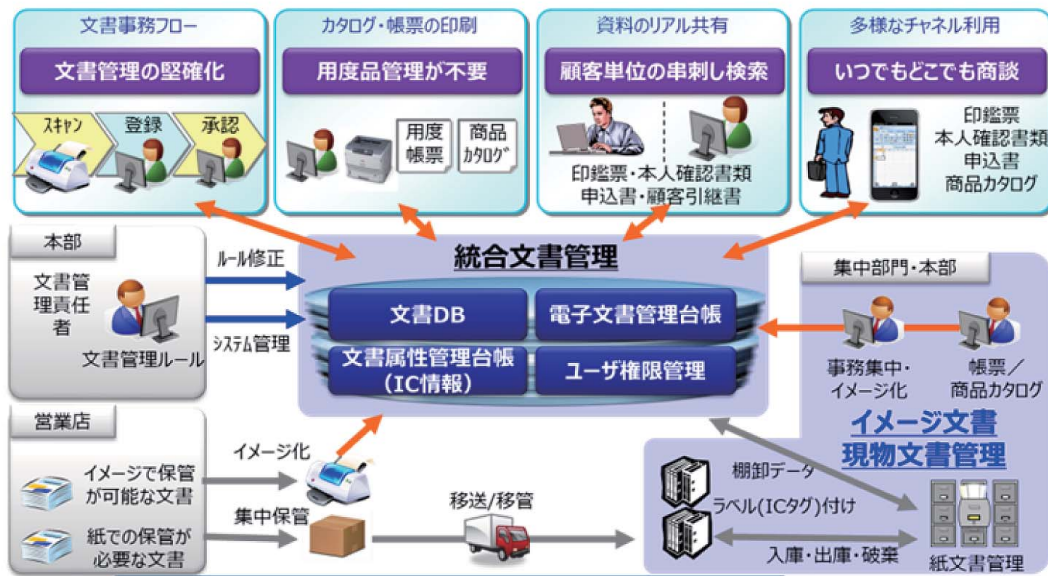
また経理／総務が行っていた内容精査の処理を外部に委託することで、業務の負荷を低減することができました。従来の運用では、紙帳票が溜まると精算処理が遅れることもありましたが、ピーク時は委託先の専門部隊を増員することにより、精算処理の期間を短縮することができたのです。また税務監査の



電帳法の要件を満たす「イメージウェアハウス」での管理フロー



電帳法対応したOKIのビフォーアフター



際も、PC 1台とプリンターを準備するだけで対応することができ、コピーを依頼する手間もなくなりました。運用は昨年からです。徐々に部門を拡大し、現在は関連会社にも展開しています。1年間で約100箱の紙文書を廃棄できる見込みです。

現状は経費精算処理に特化した取組みですが、他にも紙として残っている書類が数多くありますので、ゆくゆくは対象を広げていきたいと考えています。例えば売買契約書や保守契約書のファイルなどです。イメージ化し、後で廃棄していく予定です。

当社で取り組んでいる経費精算処理は、どの企業でも必ず発生する業務ですので、他の業種に展開していくことも視野に入れています。

将来構想は「統合文書管理」

紙で保存している文書とイメージ化された文書が混在する場



我々は黒子となってお客さま課題を解決していきます。
 金融・法人ソリューション事業部
 イノベーション推進部 部長 岩木 亨氏(右)
 金融SE第一部 スペシャリスト 上原秀一氏(左)

合は、管理方法が別々になります。そのような複数システムで管理されている場合、書類の検索が複雑になったり、管理が煩雑になりがちです。そこでイメージウェアハウスでは、紙に残っている文書についても倉庫の場所や棚卸の期限などを登録し、一元管理することを考えています。こうすることで探したい文書がある場合、統合文書管理システムで検索すれば、文書すべての情報を取得することができます。

また顧客単位の串刺し検索も可能になりますので、お客様毎にどの文書が提出されているのか即座に把握することができます。これまでは金融機関で発生する利用シーンを想定してシステム開発をしていましたが、対象市場毎にアプリケーションの工夫が必要だと思われるので、随時機能拡張を予定しています。

お客様の要望を実現するために

ペーパーレス化を提案する中で、お客様からこの書類は廃棄しても良い書類なのかという問合せをよくいただきます。法的には廃棄できないものもありますので、都度確認して一覧を作成しています。文書の種類は多岐にわたりますから細かい情報は得にくく、社内でノウハウを蓄積することは容易ではありません。こういった情報をJIIMAに所属することで、一早く取り入れられるようにしていきたいと考えています。JIIMAは法改正について政府にあるべき姿を提言していますので、お客様の要望をより多く実現できるように、JIIMAとともに電子帳簿保存法の規制緩和の働きかけを行っていききたいと考えています。